

# 平成25年度 第3回 朝日地域審議会

## 次 第

日 時 平成25年10月22日(火)  
午後1時30分～

場 所 朝日庁舎4階 大会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

(1) 地域審議会提言書(案)の検討について

(2) その他

4 そ の 他

5 閉 会

## 朝日地域審議会委員名簿

平成25年度

番号	所 属 団 体 等	役職名等	氏 名	備考
1	朝日地域駐在員連絡協議会	会 長	佐 藤 正	
2	朝日地域駐在員連絡協議会	副 会 長	上 野 博 喜	
3	出羽商工会朝日支部	代 表 理 事	松 本 壽 太	
4	庄内たがわ農業協同組合	理 事	齋 藤 源之助	
5	出羽庄内森林組合	理 事	佐 藤 泉 三	
6	あさひむら直売施設管理運営組合	店 長	佐 藤 照 子	
7	鶴岡市消防団朝日方面隊	方 面 隊 長	宮 崎 康 史	
8	庄内たがわ農業協同組合朝日支所女性部	部 長	清 野 一 女	欠席
9	鶴岡市朝日地区民生児童委員協議会	会 長	佐 藤 宥 男	遅参
10	朝日体育協会	会 長	佐 藤 芳 彌	
11	朝日芸術文化振興協会	会 長	渡 部 嚴	
12	鶴岡市老人クラブ連合会朝日支部	支 部 長	清 野 清	欠席
13	鶴岡市立朝日小学校PTA	会 長	難 波 一 之	欠席
14	大鳥タキタロウ村	村 長	大 滝 清 策	欠席
15	旧朝日村議会	元 副 議 長	井 上 時 夫	
16	朝日地域駐在員連絡協議会	事 務 局 長	工 藤 悦 夫	
17	鶴岡市食生活改善推進協議会	理 事	安 達 幸 恵	
18	あさひスポーツクラブ	指 導 員	渡 部 小 枝	
19	月山あさひ博物村	支 配 人	今 野 継 子	
20	農業（鶴岡まちづくり塾）		五十嵐 大 輔	

## I ～住み続けることができる地域づくり～ に関する提言

### 提言 I 集落自治機能を維持し、コミュニティを護る

#### 1. 現状と課題

##### ▼集落自治機能の低下

少子高齢化や転出・転居による朝日地域の人口減少は予想をはるかに上回るスピードで進み、世帯・人口の減少により、自治機能を維持することが極めてむずかしくなっている集落も顕在化している。

特に、高齢者を残しての後継者の転出等が要因となって、高齢者世帯の割合が高くなる傾向があり、地域・自治会においては役員の担い手不足や、共同作業によって管理してきた共有財産の維持が困難な状況になっていることから、早急な対応策が求められている。

一方で、農地や山林の管理の停滞により荒廃が進むなど、公益的機能の低下も危惧される。

##### ▼地域コミュニティの衰退

若年層の減少に加え、職業やライフスタイルが多様化し、地域や集落におけるコミュニティ活動が後退している実態がある。

地域の伝統文化が消失し、集落のよき風習が失われつつあるが、結いや互助の精神といった山村の誇るべき伝統を維持し、良好なコミュニティを形成するためにも集落の維持が必須であり、その対策が迫られている。

##### ▼防災機能の低下

当地域は山間地域を流れる河川に挟まれたわずかな平地に集落を形成しており、その立地条件から自然災害による生活道寸断の危険性が高く、消防分署から遠距離の集落では火災発生時の初期消火が大きな課題となっている。

自主防災組織を中心として、防災意識の向上と住民自身による防災対策に取り組んでいるが、小規模、広範な集落が大半を占める当地域においては、資機材の整備等には行政の支援も必要とされている。

また、消防団員のなり手不足で有事の際の初動対応に支障を来す状況となっておりとともに、小規模集落における消防施設等の維持管理費の負担が課題となっている。

#### 2. 提言の概要

##### ▼農業による集落の維持、再生

当地域では、小規模稲作農家を多く抱える集落が多いが、今後集落内の農地の管理・保全や農作業を集落全体でおこなう経営形態が、定住や集落の維持に

一定の効果をもたらすと考えられる。

さらに集落の活性化につなげていくためには、その仕組みを一層、充実・発展させ、法人化も含めて集落全体で農業経営、農地の保全をはかるような取り組みが必要である。

#### ▼後継者育成によるコミュニティ活動の活性化

集落を維持していくためには、後継者が集落に住み続けていくことが必要となることは論を待たないが、そのためには集落における地域づくり活動や伝統文化活動の活性化を推進するとともに、婚活支援など、地域住民の交流が促進されるような場の創出が求められており、対策が急務である。

#### ▼山間地・遠隔地集落への重点的支援

当地域は広範な山間地に集落が点在していることや、中心市街地から遠距離にあることなどから、市街化地域に比較して消防・防災・教育等にかかる経済的負担が多く、地域外に転出する大きな要因になっている。

山間地、豪雪地における生活条件は市街地に比して過酷であることに鑑み、経費負担を観点とした軽減策について早急に取り組むべきである。

### 3. 具体的な解決策・施策

#### ▼共同経営の取り組みによる集落の存続

法人化を含む集落における農業共同経営の仕組みは、集落の維持に有効であり、農地の荒廃防止も期待できることから、集落で取り組むことができる組織の育成支援、組織化を促進する施策を展開すること。

#### ▼集落再編による自治機能活性化の検討

集落戸数の減少や高齢者の割合が多くなっている集落・地区の再編の是非について課題と効果の両面を検証し、集落自治機能を維持するための適正な集落の規模や自治活動のあり方を研究すること。

#### ▼婚活支援と後継者育成

少子化に歯止めをかけ、後継者を育成していくためにも、結婚対策は重要な課題である。

民間における婚活の取り組みを支援するとともに、行政においても出会いの機会を創出するような施策を推進すること。

#### ▼山間地・遠隔地に対する重点的行政支援

行政サービスについては、各地域が同水準であることは当然であるが、山間地、遠隔地、豪雪地、小規模集落に対する補助金等については、補助要件の緩和による住民負担の公平の確保を図り定住を支援することとし、併せて公費負担のあり方について検討すること。

特に、高校生の通学支援の要件緩和などにより行政サービスの公平を確保すること。

#### ▼集落の共有財産の維持に対する支援

共有財産の維持については関係者が担うべきものであるが、過疎化・高齢化により共同作業等が困難となるなど、自助努力による維持・管理が継続できなくなっていることから、共有財産の維持に対する支援のあり方を検討すること。

#### ▼Uターン、Iターン受け入れの仕組みづくり

地域の活力を生み出すために、中高年者の移住希望に対応する施策を展開するとともに、地域における人材を外部にも求め、若者が定住できるような仕組みづくりを行うこと。

また、空き家情報をデータベース化し、移住希望者の需要に応えることができるような仕組みを構築すること。

## 提言Ⅱ 中山間地域の特色を産業に活かす

### 1. 現状と課題

#### ▼脆弱な農林業基盤

当地域は山間地を多く抱え、大規模化、大型機械化に不向きな立地条件にあり、専業による農業経営はむずかしいことから兼業農家が多い。

基幹とする稲作は米価の下落により収益性が低下していることから小規模農家の離農が進み、山ぶどうや山菜などの複合経営の安定化に向けた施策も進めているものの、担い手不足は解消できずにいる。

また、林業についても長期的な低迷から抜け出すことができず、自然再生エネルギー需要の高まりもあるものの、豊富な地域産材が有効に活用されていないのが現状である。

#### ▼鳥獣被害の深刻化

鳥獣被害は年々深刻さの度合いを増しており、経済的な被害もさることながら、収穫を目前にして被害に遭うことによる精神的なダメージも大きく、生産意欲の減退を招いている。

猟友会による巡回や電気柵の設置などの対策については相応の効果が認められ、継続した取り組みが必要であるが、対症療法的な対策だけで抜本的な解決には至っていない。

### 2. 提言の概要

#### ▼集落における集団経営に対する支援

中山間地において耕地、特に稲作を守っていくには、集団で耕作する仕組みをつくり、集落・地域全体で取り組んでいくべきである。

法人化などによるメリットを施策として前面に押し出し、収益性があがることによって耕作放棄地の増加を防ぎ、環境の改善にも貢献していくような支援

策を講ずる必要がある。

#### ▼少量多品目作物の加工部門の推進

当地域は地形的に大規模な農業経営がむずかしい立地条件にあることから、山菜や菌茸類等、特用林産物の少量多品目生産による経営が営まれてきたが、販路が限られていることが課題となっていた。

現在では産地直売やインターネットによる通信販売など、多様な販売の仕組みができつつあり、「自分で採ったものに、自分で値段をつけて売る」ことが可能になっていることから、「生産者自らの手によってパッケージができる施設・設備」を整備し、地域産業の活性化をはかるべきである。

#### ▼鳥獣被害対策

鳥獣被害対策は、もはや朝日地域や中山間地といった限定的な地域課題ではなく、全市的な課題として取り組みを進める必要がある。

即効性のある取り組みを推進することも重要であるが、中長期的には、人工林から自然林への回帰を進めてエサを増やすことや、人が山に入って施業を進めることによって、鳥獣を集落・耕地・畑地から遠ざけるような施策も具体化していくべきである。

#### ▼山ぶどうの多様な加工品への展開

山ぶどうは、月山ワインの振興とともに徐々に生産を伸ばしてきており今後とも安定供給のための体制を堅持する必要があるが、必ずしもほかの加工品への展開は十分に成されているとは言えない。

滋養強壮効果を前面に押し出すのであれば、アルコールが入っていない方が商品展開しやすい一面もあると考えられる。

また、実だけでなく、蔓や葉、枝など、全てが商品としての潜在的価値を持ちえており、商品化の研究を推進すべきである。

#### ▼自然エネルギー利活用の推進

当地域は、雪・水・森林など、再生可能な自然エネルギー源の宝庫である。地球環境の保全に対する意識が高揚し、自然エネルギーへの転換が求められている昨今、当地域はそのモデルとして積極的に導入に向けた取り組みを推進すべきである。

#### ▼雇用対策・所得向上策の推進

朝日地域に新たな就業の場を増やし、地元における雇用機会の創出することによって、山間地域で生活設計できるような所得向上対策を講ずるべきである。

### 3. 具体的な解決策・施策

#### ▼潜在的な地域資源の掘り起こし

中山間地における農業においては、これまで活かしきれずにいた潜在的な地域資源をどのように活かしていくかが問われている。

しかしながら、新規に商品化するには初期投資が課題であることから、商品

化の取り組みに意欲を持った生産者に対し支援を行うこと。

#### ▼販売戦略の構築

新規作物や少量多品目生産作物で高収益を上げるには、販路の拡大をはかることが重要である。

新規顧客の開拓や観光事業者とのタイアップなど、販売戦略の構築をはかる取り組みに対して支援していくこと。

#### ▼鳥獣被害対策の推進

中長期的な被害軽減対策を研究するとともに、当面は即効性のある対策を強化し、猟友会の会員に対する支援を拡充するなど後継者の育成に努めること。

#### ▼産直施設の有効活用と加工施設の整備

特用林産物の販路として、消費者に直接、販売できるような仕組みが有効であることから、生産者が自らの手で商品化ができるようなパッケージ施設・設備の整備に支援すること。

#### ▼後継者育成支援

意欲を持って就農したいという後継者を育てていくことは、地域の産業にとって最重要課題である。

就農に向けた条件整備や環境整備を行い、一人でも多くの後継者が育つよう支援すること。

#### ▼癒しの空間の提供

里山文化に癒しを求める観光客が多く訪れるが、受入態勢が整っているとは言えず、取り組みに工夫が求められている。

朝日の魅力を活かしたメニューの開発に取り組むとともに、観光客のニーズに応じていくような取り組みを推進すること。

#### ▼ペレットストーブの普及対策

当地域においては、ペレットストーブの燃料となる木材が豊富であることから、先駆的に取り組む条件が整っている。

生産の拠点となる施設整備の検討や、原材料の安定的な供給対策など、地域特性を活かした利活用の方法を研究すること。

## 提言Ⅲ いきいきと輝く“ひと”と地域を創る

### 1. 現状と課題

#### ▼住民活動の停滞

少子高齢化、人口減少が要因となり、芸術文化活動を始めとする住民の自主的な活動、特に子ども会、青年団体、女性層など若年層の組織活動が停滞し、地域の活力が急速に失われつつある。

住民主体の活動が必要であることは理解しつつも、定住対策のために、山間地域に対する行政の支援も必要とされている。

また、地域活動に意欲をもって取り組むためには、安定した経済基盤が不可欠であるが、その基盤は脆弱であるのが実情である。

#### ▼生活基盤の悪化

雇用の場が少なく遠距離の通勤には長時間を要すること、積雪による労力や生活費の増嵩などから、後継者が生活の場を市街地に求め、高齢者世帯が増えている。

商店も減少し、生活交通路線も先細りで、買い物や通院などにも不便を来している状況があり、高齢者に対する生活支援が求められている。

また、転出による空き家の増加、さらには近年の傾向として雪下ろしもせず倒壊しても放置する建物が多くなり、景観や環境の悪化が顕在化している。

## 2. 提言の概要

#### ▼生涯学習活動の推進

生涯学習は、地域づくり、ひとづくりに重要な役割を担っているが、その活動の停滞が指摘されている。

その要因として、地域の人口減少、特に若年層の減少による団体活動の停滞、事業などへの参加意欲の減退、行政が主導的な役割を發揮できなくなっていること、施設利用に負担が伴うこととなったことなどが挙げられている。

活動を推進するためには、公民館が大きな役割を担っており、行政が積極的に住民の活動を支援していくべきである。

#### ▼芸術文化活動の活性化

地域の伝統行事の伝承が難しくなっていることから、その保存・伝承や、失われつつある文化の発掘や復活する施策を推進する必要がある。

また、芸術文化団体においても高齢化が大きな問題となっており、後継者の育成に向けた積極的な対策が急務である。

#### ▼愛郷心の醸成と人材育成

地域での共同体として生活を営んできた里山の生活様式も大きく変わっているが、日常生活の不便さを感じながらも生まれ育った地域に住み続けたいと思うような子どもを育成するには、親が誇りを持って地域に暮らしていると伝えることが必要である。

また、地域にとって有為な人材を育成するには、小中学生の頃から地域活動に対する意識付けが重要であり、地域の歴史や資源、集落の中での世代を超えた人的なつながりを伝えていくような地域づくりが必要である。

#### ▼生活環境の整備

市街地から遠隔であることと、豪雪地帯という物理的なハンデは解消する術がなく、そこで生活を営むためには、通勤や通学、高齢者の通院や買い物など



に対する不便さを軽減することが必要である。

道路除雪による交通の確保は進んでいるが、雪下ろしや排雪などの労力、負担の軽減を図るような施策を推進すべきである。

### 3. 具体的な解決策・施策

#### ▼生涯学習活動に対する支援

地域における自主的な活動を支援する体制づくりはもとより、活動に対する支援ニーズを把握し、メニュー化することも行政に求められている。

また、公共施設利用の負担軽減を求める声も大きく、「(仮)活動センター」化に伴う施設の利用方法については、住民の声を十分に反映させること。

#### ▼芸術文化活動への支援の拡充

地域の伝統文化を保存・伝承し、芸術文化活動を推進するために、活動するための施設の確保や、活動に対する支援を行うこと。

#### ▼イベント、地域おこし活動の支援

地域の活力に結びつくイベントや地域おこし活動に対する支援を積極的に行うこと。

また、若者がイベントなどに参画する機会を創出する方策やネットワークづくりを行うために、大学生などが参画できるような機会を創出するとともに、地域おこし活動に取り組む団体の育成を支援すること。

#### ▼生活交通の確保

路線バスの維持だけでは、生活交通の確保は困難になっている。

公共交通は高校生や高齢者といった交通弱者対策に重点をおいた仕組みづくりにシフトするとともに、スクールバスとの混乗やデマンド交通などの可能性について研究すること。

#### ▼空き家対策

放置された空き家に対しては、条例の規定により対処し、地域の景観や環境を守るように努めること。

また、貸借や売買が可能な物件を把握し、Uターン、Iターン者の需要に応えるような仕組みづくりを研究すること。

#### ▼克雪・利雪対策の推進

道路除雪はもとより、地域の共有財産の雪下ろしなどが困難になっていることから、共有財産の維持・管理に対する支援を検討すること。

#### ▼庁舎機能の充実・拡大

地域における対応を、地域において決定することができる範囲を広げ、ニーズに即した行政対応が求められている。

地域庁舎の予算執行や決裁権限を拡大するなど、裁量の幅を広げること。

#### ▼廃校舎の利活用

朝日大泉小学校、大網小学校の廃校後の校舎については、地元の意見も尊重

しながら利活用できるように配慮すること。